

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200199		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター高岡		
所在地	富山県高岡市中川栄町5番13号		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成28年12月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成や家族支援を担うため、「ニチイの認知症ケア」研修を内外に向けて実施している。</li> <li>・毎月第3木曜日に見学会、ほほえみカフェ、誕生日にはご利用者の誕生会を開いている。</li> <li>・季節の行事を取り入れ、慰問ボランティアの方に来て頂いたりし、入居者や地域の方々に楽しんで頂けるように取り組んでいる。</li> <li>・季節ごとに外出の機会を増やす取り組みをしている。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人本部が毎年実施する年1回の「顧客満足度調査」アンケートで、環境面や職員の対応などについて、家族から率直な意見や提案をいただいている。事業所は本部から報告されたアンケート結果を受け、家族にもその内容について公表するとともに、職員間で改善対策を立て、より良いサービスと運営に活かしている。また、福祉人材の教育事業も展開している法人が開催する「認知症ケア研修」に、事業所職員を積極的に受講させ、認知症への理解と学びを深め日常のケアに活かせるよう導くとともに、やりがいをもって介護に従事できるよう支援している。運営推進会議での話し合いや情報交換の中から、地域ボランティアの来訪が数回実現するなど、民生委員や自治会長などの協力がある。年間の外出計画では、花見や七夕見学、普段行けない場所へのドライブなどに出かけ、日常の中に楽しみを見つけている。おやつは職員が希望を聞きながら毎日手作りするなど、温かで家庭的な雰囲気大切にしている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あたたかいほほえみで明るい毎日。やさしいほほえみでやすらぎの毎日」を職員全員で考え基本理念とした。社是の誠意・誇り・情熱や施設の基本理念を頭に置き、業務に取り組んでいる。ミーティング時には復唱している。	社是を基本に、ホーム理念は開設時に職員が話し合い作成したものを継承している。1階玄関と事務所に掲示している理念は毎月のミーティング時に唱和するなど、その意義を理解し、日頃の介護の中で常に意識して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店を利用し買い物をしたり、月に1度床屋さんに訪問して頂いている。毎月カフェを開き近所の方や家族に案内している。年に数回の行事において地域とのつながりの場を設けている。	月1回、リビングを開放した『ほほえみカフェ』を開き、地域との交流を図っている。折々にボランティアの来訪があり、手品や歌などを楽しむ機会がある。ドラッグストアへの買物や、住宅街の散歩など日常的な地域との付き合いも大切にしている。	運営推進会議や民生委員の力を借りて、第三木曜日に開いている『ほほえみカフェ』に地域や家族の参加を増やし、ホームが地域に、より開かれた場所となるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期の大きな行事日に、特設コーナーとして設けて支援方法や技術等、相談を受け発信できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に定期開催している。入退去者、待機者の報告や行事の案内をしたり出席者にその時々が発生している事を話し、アドバイスを頂いている。	隔月開催の会議では、活動報告、予定、事故報告書等について意見交換をし、ボランティアの来訪も会議の中から実現するなど会議をサービスの向上に活かすよう努めている。家族へは会議出席の依頼、議事録の郵送などを実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月毎の運営推進会議で活動状況を伝えている。困難なことがあった時は、市役所に相談に行ったりしている。	市の担当職員とは、介護相談員派遣についての相談をしたり、また福祉センターから、ボランティア情報を受け、胡弓、民謡、マジックショーなどの訪問につなげることができるなど、連携・協力体制を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待や認知症、高齢者について正しい理解度を高め、介護の技術や研修などで身体拘束のないケアに取り組んでいる。	本社の認知症ケア研修の中で、身体拘束をしないケアを実践するための学習を行い、「高齢者虐待防止マニュアル」を基本に、身体拘束廃止委員会の中で、正しい理解のための話し合いを行い、スタッフに周知し日常のケアに活かすよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	当社の高齢者虐待防止のスローガン「虐待は許さない、虐待をしない、見逃さない」を掲げて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、成年後見制度を利用する方が増えてくると思われるため、学んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問点について説明している。看取りや状態が変化した時の事など、契約後でも疑問点が生じた時は家族に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回法人本部が実施する家族アンケート“顧客満足度調査”を実施している。その結果を全職員に周知すると共にミーティング時等で対応について検討し、ご家族にも報告している。	家族来所時の会話の中から表出した、要望や思いなどをすくいとり、個人別の連絡ノートに記録して、朝夕の申し送り等で共有し改善を図っている。年に一度の家族アンケートは、全家族に報告して結果を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや朝礼「食事」「行事」「身体拘束廃止」「新聞」「衛生・環境対策」の各委員会を開催している。委員会での決定事項については、全員で実践するように努力している。	職員は月2回のミーティングや朝夕の申し送りで、気づいたことを率直に発言することができる。委員会活動は、個々が、自主的に運営や利用者のケア等について考え、実践できるような取り組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務条件を把握し、極力希望に沿うよう配慮している。キャリアアップ試験による賃金アップ制度がある。平成28年4月より、賃金アップした。労働組合にも全員加入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム内での勉強会を毎月実施している。社内や社外の研修の案内をしたり、上位資格取得の協力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、県内にある法人内のグループホームと合同研修会を開催し、勉強会や情報交換を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、不安や困っていることを無くしていくように努めている。また、安心感をもってもらえるよう信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との連携を密にして、信頼関係を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を傾聴し、必要に応じ、他の選択肢として、在宅サービスや他のグループホーム、施設についてもできる範囲で説明、案内している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には職員が見守りながらできることは自身でやって頂いている。食器、おぼん拭き、衣類たたみ等の手伝いもなるべくして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で近況報告したり、家族の面会などにおいて家族とゆっくりとした時間を過ごして頂くように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に外泊や外出の介助をして頂いている。本人と過ごす時間が持てるよう、行事の案内等をしている。	利用者の行きつけの美容室に行ったり、事業所に曾孫の訪問、家族と自宅に帰り、季節毎の衣類整理をする方、また、通院の際に外食を楽しんだり、墓参り等に出かけている。家族や知人、馴染みの場所などについて関係の継続が図れるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中居室に引きこもるような事がないよう、日常生活作業に参加して頂けるような声掛けをしている。利用者一人ひとりの意見を尊重し、話を傾聴するよう努めている。利用者間の相性を考慮し、席替えをしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にはいつでも相談にのる旨お伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状態を把握したうえで、日常会話の中で取り組んでいる。本人の意思や家族からの情報提供などによって本人の希望が取り入れられるように工夫している。	入所時の情報収集の他、日常生活の中で、じっくりと話す機会をつくり、利用者のしたいことや、得意なことなどについて個々に聞いている。結果、草むしりや編み物をしたいという利用者の思いを把握し、実際に実施してもらい、笑顔を引きだすことができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイル等を見直したり家族などから情報を得るなどして以前の暮らしなどを理解し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩行状態や排泄、食事、バイタルサイン等日々の様子を観察している。必要に応じてこまめに測定している。朝、ター一人ひとりの状態をきちんと申し送りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	業務ミーティング等や日々の申し送り時に話し合いを実施して本人のより良いケアに反映させている。家族来所時には情報交換をしている。	スタッフは、利用者の日々の状態や変化があればそのつど、「気づきメモ」の様式に記載して提出し、モニタリング時の参考にしている。変化がなければ、家族の要望を聞き、6か月に一度介護計画を見直しを行い、現状に即したものとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の意見を尊重し情報交換をしている。介護記録や、月2回のミーティングで情報を職員間で共有しながら日々のケアに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況などの情報を共有しながら良いケアが出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、安全・安心で過ごして頂くように努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人のかかりつけ医を確認し、馴染みの病院への受診をすすめている。要望があった時は提携医を紹介している。	入居時に、本人や家族が希望する主治医を選択し、希望する場合は協力医の往診を受けている。家族対応での受診時には情報提供を行い、緊急時はスタッフが同行して状況を説明するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当者が看護師資格を保有しているので相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携室の担当者や家族に連絡を取ったり、現状を確認しに行ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	12月より週に1度訪問看護に来て頂けるようになり、主治医の指示のもと、医療行為をしてもらえることになった。重度化した場合のあり方について家族、主治医、看護師と連携を取りながら支援に取り組む。	『重度化した場合における対応に係る指針』が整備されている。重度化や終末期には、訪問看護師とも連携をとり、個々の状況の変化に合わせ話し合いを重ね、本人にとってより良いケアの方法を考え支援に繋げていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送時における注意事項等は月2回のミーティングを通して、設置場所や対応の仕方を再確認している。緊急時はその場にいる職員が対応している。対応が困難なときは管理者に連絡する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練などによって避難の方法などを学んでいる。民生委員の方を通して地域の方に見学して頂いたり、地域の防災訓練に参加している。	年に2回、火災を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議で訓練の周知を行い協力を要請し、民生委員、自治会長、地域住民の参加がある。また、事業所として校下の風水害避難訓練に参加するなど協力体制を築いている。	火災以外の、地震や水害などへの災害対策に取り組み、利用者が安心して避難できる方法などについての取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	採用時と毎年個人情報についての研修を行い、テストで理解度を確認し、その上で利用者一人ひとりに応じた声掛けと対応をするよう心がけている。プライバシーなどにも配慮し職員間で注意しながら声かけを行っている。	スタッフは毎年、本社の指導で『コンプライアンス・個人情報トレーニング』をテキストで学び、理解度をチェックしている。利用者一人ひとりを尊重し、お客様という認識で接するような声かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から本人の思いなどを導き、把握し、本人の気持ちを良く聞くように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制せず、利用者一人ひとりの意思を優先し、本人のペースに合わせて支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方にはしてもらっているが、介助が必要な方には判断や動作の援助をしている。毎日起床時と就寝時は更衣して頂いている。タンスやクローゼットの整理整頓の援助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のおやつは職員が手作りしている。正月や節句等行事がある時には、お弁当やオードブルを注文したり、季節に合った献立にし食事を楽しむ工夫をしている。	基本の献立とレシピは本部から届くが、季節に応じた行事食などは担当職員と利用者が相談して考えている。ゼリー、プリン、ホットケーキ等の手作りおやつをはじめ、花見や七夕祭りへの外出時に外食の機会を設けるなど、食を楽しむ取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に目を通し、飲食量を把握しながら支援している。会社の献立表を変えアレンジしている。入居者の状態に合わせてミキサー食やきざみ食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後には口腔ケアの声掛けをし、清潔保持に努めている。利用者の能力に応じたケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態を把握しながら本人の自立につながるように支援している。 個々の排泄状況やリズムに合わせてトイレ誘導している。	排泄状況を把握するため、そのつど介護記録への記載を行い、一人ひとりに合わせたトイレでの排泄支援をしている。便秘対策として、水分やヨーグルトなどの乳製品の摂取を積極的に行うよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員間で排便状況の一覧を用い把握をしている。排便が無いときは水分を多めに摂ってもらったり、乳製品を摂取してもらったり下剤を調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日2～3人ずつでほぼ平等に入浴できるように配慮している。一人ひとりのペースに合わせてコミュニケーションを取りながら入浴介助している。個浴で一人ひとり浴槽のお湯は入れ替えている。	原則として月～土は入浴できるよう体制を整え、浴槽の湯は一人入浴ごとに入れ替えている。入浴拒否の方には無理強いせず、声かけに工夫して一番風呂などを勧めている。また、保湿のための入浴剤を使用し、皮膚の乾燥や肌荒れを防いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや日々の体調に応じて休憩、就寝してもらっている。睡眠を優先できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報を確認した上で服薬のセットを行い、それぞれに合った方法で服薬介助をしている。服薬確認はダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割や楽しみを把握し、日々の生活の中からできる事を実践している。毎月カフェを開き、家族や地域の方々にも声をかけ、楽しんで頂けるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度少人数ではあるが、外出できるように努めている。季節ごとに外出する機会を設けている。(花見、おとぎの森公園、七夕等)	隣接するドラッグストアへ月に一度、散歩を兼ねて買物に出かけている。また、自宅への外出や、受診の時に外食をするなど、家族と一緒に出かける機会がある。その他、花見や七夕まつりなど、事業所で季節ごとの外出計画を立て、普段行けないような様々な外出の機会を設け、楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして事務所の金庫で預かっており、必要な時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族などへの電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節に応じた飾りつけをしている。室内の配慮をすると共に、加湿器を設置している。適度な換気を行い、環境に配慮している。	南向きのリビングには、冬の日差しが差し込み温かく、また、乾燥に留意して、加湿器を設置している。壁面には、季節を感じさせる合同作品や、話題性のあるスポーツ選手の写真などが掲示されていた。共用空間は、居心地よく飾りすぎないような配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の思いに応じて共同空間と居室の行き来をして頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意見を取り入れながら居室で安全に居心地よく過ごして頂けるようにしている。使い慣れた家具や布団等を持って来て頂き、入居前と同じ環境に近づけるようにしている。	入居時には、環境変化のダメージが少なくなるよう、使い慣れた家具や、置物等の持ち込みを依頼している。各居室のドアに、細く入ったすりガラスには、下部に透明な部分があり、プライバシーを確保しながら安心を見守れるような工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物や転倒につながるような物を認識し、安全に生活できるよう工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 ニチイケアセンター高岡

作成日: 平成 29 年 1 月 30 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災訓練は年2回行っているが、風水害、震災訓練が行えていない。	風水害、震災の訓練を行う。	1年に2回防災訓練を行っているが、風水害、震災訓練もご利用者の身体状況を把握しながら、月々のミーティングや勉強会時に取り入れる。	3ヶ月
2	2	地域との関わりを持っていく。	行事に参加してもらう。	毎月第3木曜日にほほえみカフェを開いており、近隣の方々に周知してもらうため、チラシを配布する。 ニチイまつりや消防訓練への参加の声掛けをし、地域との関わりを持っていく。	9ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。